

令和 8 年度

福祉体験学習

～みんなで作る やさしさあふれるまち～



げんきくん

こころちゃん

福祉体験学習は、年齢、性別、個人の能力差、国籍など、さまざまな特性や違いを超えて、すべての人に配慮したまちづくり、ものづくりなどを行う考え方を学ぶ福祉の話を軸に、各種体験を実施します。

伊勢市ボランティアセンターでは、体験学習を通して、自分たちに何ができるのか、これからの自分たちの活動について考えるきっかけをつくるお手伝いをします。ぜひ、ご活用ください。

伊勢市ボランティアセンター

目次



福祉体験学習時のお願い	P1
福祉体験学習のご利用方法	P2・3
福祉体験学習メニュー	
(1) 福祉の話(ユニバーサルデザイン含む)	P4
(2) 高齢者疑似体験及び介助体験	P4
(3) 車いす体験及び介助体験	P5
(4) 視覚障がい者の理解(アイマスク体験及び介助体験)	P5
(5) 福祉車両の使い方講座	P6
(6) 障がい者サポーター研修・簡単な手話体験	P6
(7) 認知症サポーター養成講座・認知症キッズサポーター養成講座	P7
(8) SDGsから考える伊勢の未来	P7
～今、自分たちにできることを考えよう～	
(9) 命の授業	P8
(10) 当事者による講話(視覚・聴覚)	P8

福祉体験学習時のお願い



福祉体験学習は、当事者への理解を深める効果的な学習です。しかし、目的をどのように設定するのかで意味合いは大きく変わり、例えば「車いす体験」では、単に車いすの押し方など操作を学ぶことだけが目的ではなく、その操作方法を学ぶことで、障がいのある方の生き方にふれることや、やさしい心を育てることにもつながります。

福祉体験学習は、このような目的を達成するための手段であって、福祉体験学習自体が目的ではないこと、そして本来の目的を達成するうえで、当事者の方からお話を聴くことも重要だと考えています。ぜひそのような視点で福祉体験学習をご活用いただければ幸いです。

(1)～(10)の体験メニューがございますが、そのほかに「こんなテーマでやってほしい」など、何かご要望がございましたら、お気軽に伊勢市ボランティアセンターまでお問い合わせください。



福祉体験学習のご利用方法



〔対象〕

伊勢市内の福祉協力校(小学校・中学校・高等学校)、専門学校、大学、
企業・事業所等

〔申し込み期間〕

通年

※事前相談・打合せ後、福祉体験学習講師派遣依頼 兼 物品借用書を、実施日の
1カ月前までに伊勢市ボランティアセンターへご提出ください。

〔受講料〕

無料

※(10)当事者による講話(視覚・聴覚)については、外部講師に依頼することになりますので、講師謝礼・材料費などの費用が必要です。

福祉体験学習講師派遣依頼 兼 物品借用書は
伊勢市社会福祉協議会ホームページからダウンロードしていただけます。(トップページ→ボランティアセンター事業→申請書類)
伊勢市ボランティアセンター情報誌「いせボラにゅーす」もぜひご覧ください！



伊勢市社会福祉協議会
ホームページ

〔申し込みから実施までの流れ〕

① 事前相談

伊勢市ボランティアセンターに、希望する学習内容や実施日時をご相談ください。

伊勢市ボランティアセンター

伊勢市八日市場町 13-1 伊勢市社会福祉協議会 福祉センター1階

TEL 0596-63-6370 FAX 0596-27-2415

E-mail ise-vc@mie.email.ne.jp



② 打合せ

担当職員が福祉体験学習実施場所にお伺いし、打合せを行います。



③ 福祉体験学習講師派遣依頼 兼 物品借用書の提出

福祉体験学習実施日の1ヵ月前までに、伊勢市ボランティアセンターへご提出ください。



④ 福祉体験学習の実施

福祉体験学習のさらなる充実のため、体験いただいたご感想や学習内容に関するご意見等をお聞かせいただけますと幸いです。

(1) 福祉の話(ユニバーサルデザイン含む)

「ふくし」ってなんだろう。身近な福祉を知る入口としてユニバーサルデザインの話を変えながら講話をします。各種体験の事前学習として、必ずご受講ください。

〔対 象〕 小学3年生以上

〔内 容〕

- ・「ふくし」ってなんだろう？
- ・身近にあるユニバーサルデザイン
- ・各種体験の事前学習



誰もが持ちやすく工夫されたハサミ

(2) 高齢者疑似体験及び介助体験

高齢者体験装具を装着し、体の重さ、肘や膝の動きにくさのほか、白内障と同じように見えるゴーグルを使って、目の衰えなどを体験します。そして、加齢に伴う筋力低下や視力障がいを経験することで、高齢者の体を理解し、自分たちにどのようなサポートができるのかを考えるきっかけとします。

〔対 象〕 小学4年生以上

〔内 容〕

- ・階段の昇降
- ・校内を歩く(段差やトイレ、出入口等)
- ・校内の掲示物等を見て、どのように見えるかを確かめる



(3) 車いす体験及び介助体験

車いすの説明をしたあとに、実際に車いすに乗って自走や段差などを体験します。また、車いすを押す介助体験を通して、車いすのサポート方法を学びます。自走と介助の双方を体験することで、車いすを使用している人の気持ちを理解し、バリアフリーや自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとします。

〔対 象〕 小学4年生以上

〔内 容〕

- ・車いすのたたみ方、ひろげ方
- ・車いすの押し方(適切な声かけ)
- ・ブレーキの操作方法、段差や溝の越え方、坂道の上り下りなど



協力 伊勢市ボランティアセンター地域貢献登録企業 株式会社グッド・ナル

(4) 視覚障がい者の理解(アイマスク体験及び介助体験)

二人一組でペアになり、一人がアイマスクをつけて、もう一人が介助を体験します。途中で交代し、双方の立場を体験します。視覚障がい者の気持ちになり生活上の不便を知ること、介助の仕方、声かけ方法、基本的な知識を身につけます。今後の視覚障がい者との接し方について学び、視覚障がい者への理解とこれからの自分たちの活動を考えます。

〔対 象〕 小学3年生以上

〔内 容〕

- ・平地での歩行(適切な声かけ)
- ・階段の昇降
- ・椅子に座る



(5) 福祉車両の使い方講座

三重ダイハツ販売株式会社スタッフによる、福祉車両「タントスローパー」を用いた車いすの乗降体験を行います。介護する側とされる側を交代して体験することで、福祉車両の正しい使い方や介助方法を学び、介助を必要とする人の気持ちを理解します。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験内容〕

- ・車いすの押し方(声かけ)などの介助方法
- ・福祉車両の正しい使い方



協力 伊勢市ボランティアセンター地域貢献登録企業 三重ダイハツ販売株式会社

(6) 障がい者サポーター研修・簡単な手話体験【オンライン可】

障がいのある人を取り巻く伊勢市の現状や障がい者サポーター制度、障がい特性や障がいのある人が必要とするサポートについて、パワーポイントやDVD映像をまじえてご紹介します。また、あいさつなどの簡単な手話を学びます。90分程度の講座です。講座修了後、登録申込書をご提出いただくと、障がい者サポーターとして認定し、障がい者サポーターを証明するピンバッジをお渡しします。

〔対象〕 小学4年生以上

〔内容〕

- ・障がい者サポーター制度について知ろう
- ・あいさつなどの簡単な手話体験

協力 伊勢市健康福祉部 高齢・障がい福祉課



(7)認知症サポーター養成講座・認知症キッズサポーター養成講座

認知症サポーターとは、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族をやさしく見守る「応援者」です。認知症を理解する人(認知症サポーター)が増えることで、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちになります。この講座では、認知症についてや、認知症の人との接し方、認知症サポーターができることなどを学ぶとともに、相手を思いやる心を育むことを目的に実施します。講座を修了された方にはサポーターカードをお渡しします。

〔対 象〕 小学4年生以上

〔内 容〕

- ・認知症の理解 ・認知症の人との接し方
- ・認知症サポーターができること 等

協力 伊勢市内の地域包括支援センター



サポーターカード

(8)SDGsから考える伊勢の未来 ～今、自分たちにできることを考えよう～

将来を担う子どもたちが、様々な社会の課題とSDGsのつながりを知ること、自分たちのまちで自分に何ができるのか、そして「誰一人取り残さない」、「一人ひとりが手を取り合い自分らしく生きるためにはどうすればよいのか」をSDGsの17の目標や課題解決の実例を通して学びます。

〔対 象〕 小学4年生以上

〔内 容〕

- ・「SDGs17 目標」って何だろう？ ・課題解決のための活動紹介
- ・グループディスカッション(自分たちにできることを考えよう！)

協力 伊勢市ボランティアセンター地域貢献登録企業 河田フェザー株式会社



(9) 命の授業

保護猫活動を通して見える、近年の日本全国・三重県における動物愛護法や殺処分の変移、殺処分を回避するため環境省が推進している TNR(地域猫)活動についてわかりやすく説明します。ペットを家族に迎えるにあたり、命に責任をもつことの大切さなど、子ども向け、大人向けにより時事的に内容を変えてお話しします。

協力 伊勢市ボランティアセンター登録団体 Ise Happy Cats



(10) 当事者による講話(視覚・聴覚)

福祉体験学習を深めるうえで、当事者の話や体験を聴くことはとても重要です。当事者の今までの体験や生きてきた歴史を知ること、尊厳を育み、様々な「気づき」をもたらすことを目的とします。

〔対 象〕 小学3年生以上

〔内 容〕

・目の見えない人や耳の聞こえない人から、見えない・聞こえないということはどういうことか、どのような生活をしているのか、気持ちを伝えることの大切さなどの話を聞き、視覚障がい者や聴覚障がい者についての理解を深める。

※外部講師に依頼することになりますので、講師謝礼・材料費などの費用が必要です。

伊勢市ボランティアセンター



伊勢市八日市場町 13-1 伊勢市社会福祉協議会 福祉センター1階

TEL 0596-63-6370 FAX 0596-27-2415

E-mail ise-vc@mie.email.ne.jp